

日本 NPO 学会第 11 期理事会 第 16 回理事会議事録

開催概要

日時：2022 年 3 月 10 日（木）19:00～21:14

場所：日本 NPO 学会事務局

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部公共政策学研究室内

開催方法：WEB 会議ツール「Zoom」を利用したオンライン開催

出席理事：石田会長、坂本副会長、青尾理事、稲葉理事、大久保理事、岡田理事、岡本理事、川中理事、菊池理事、粉川理事、小島理事、小田切理事、菅野理事、鈴木理事、戸川理事、中嶋理事、仁平理事、長谷川理事、早瀬理事、松島理事、三木理事、李理事

欠席理事：桜井理事、出口理事、森理事

出席監事：濱口監事、上原監事

議案・配布資料

別添の議事次第および配布資料を参照

1. 理事会の成立、進行、出席者の確認等

理事会の成立の確認

会則第 26 条の定めにより、過半数の理事（25 名中出席 22 名、委任状提出 1 名）が出席であり、本理事会が成立していることが確認された。

議長

会則第 25 条の定めにより、石田会長が議長を務めることが確認された。

議事録署名人の選出

会則第 26 条第 3 項に基づき、議事録署名人として、川中理事、鈴木理事が選出された。

2. 審議事項の経過と結果

(1) 第 1 号議案：第 12 期理事候補者選挙の新たな実施案について

・仁平選挙管理委員会委員長及び小田切選挙管理委員より、理事候補者選挙の新たな実施案について提案がなされた（第 1 号議案資料、第 1 号議案資料別紙）。新型コロナウ

ィルス感染症拡大の影響を鑑み、理事候補者選挙の手續きに関する細則第 13 条に基づき、オンラインでの選挙を実施すること、実施には会員管理業務を委託している(一社)学会支援機構のシステムを利用すること、について説明が行われた。

質疑

- ・海外の方は大丈夫なのか、とか細かい問題が出てくる可能性があるのでは、それも想定しつつ進めてもらいたい。

承認事項

審議の結果、第 1 号議案については原案通り承認がなされた。

(2) 第 2 号議案：正副会長選挙実施規程改正案について

- ・三木組織運営委員長より、正副会長選挙実施規程改正案について提案がなされた(第 2 号議案資料)。前回理事会で議論された副会長の指名制について盛り込んだこと、第 2 条で副会長の指名制を規定したこと、などについて説明がなされた。

質疑

- ・改正案のタイトルは、正副会長選任規程ではなく、正副会長選定規程であるので修正いただきたい。
- ・対面で実施することが前提になっているが、オンラインでやる場合は、どの規程に基づいてやるのか。
⇒第 20 条の危機管理の規定に基づきオンライン対応を行うことになる。

承認事項

審議の結果、第 2 号議案は原案通り承認がなされた。

(3) 第 3 号議案：ハラスメント対策に関する各規程改正案について

- ・三木組織運営委員長より、ハラスメント対策に関する各規程改正案について提案が行われた(第 3 号議案資料)。前回理事会で指摘のあった会長が利害関係者になった場合の対応について規定に盛り込んだことについて説明が行われた。

質疑

- ・なし

承認事項

審議の結果、第 3 号議案は原案通り承認がなされた。

(4) 第 4 号議案：2021 年度事業報告（素案）について

・石田会長より、2020 年度事業報告（素案）について提案が行われた（第 4 号議案資料）。大会の開催、ウェビナーの開催、学会誌の編集・発行、第 19 回日本 NPO 学会賞の選考、などを行ったことについて説明が行われた。また、本事業報告は素案であり、本日は大枠についての意見を集約したい旨、説明があった。

質疑

- ・学会誌については、3 月中に発行見込みであり、発送のみ 4 月に入る予定である。その点、修正いただきたい。
- ・昨年 5 月に行った研究大会向けウェビナーが抜けているので、それを追記いただきたい。

承認事項

審議の結果、第 4 号議案は継続審議とした。

(5) 第 5 号議案：2022 年度事業計画（素案）について

・石田会長より、2021 年度事業計画（素案）について提案が行われた（第 5 号議案資料）。大会の開催、セミナーの開催、学会誌の編集・発行、日本 NPO 学会賞の選考、アドボカシー活動、広報活動、災害等対応、規程類の整備等を計画することについて説明が行われた。また、本事業報告は素案であり、本日は大枠についての意見を集約したい旨付言があった。

質疑

- ・予算に余裕があるのであれば、他学会や他組織と連携する際に優遇するとか、会員サービスとして目に見えるかたちで還元すべきでは。
- ・ノンプロフィット・レビューの発刊回数を増やすなどの可能性もある。
- ・非営利法人研究学会では、地域レベルでの研究会を義務付けている。地域で会員が集まる機会を増やすことが重要。
- ・学会として、研究プロジェクトに助成するという選択肢もある。公募ではなく学会の方でテーマを決める方がいいのでは。
- ・若手の国際学会参加助成だが、ISTR などは対面で開催予定であるため、旅費分も含

めて総額を増やしていただくのも一案ではないか。

- ・このように予算に余裕があるときに、会員向けの事業化をやるとよいのでは。
- ・この学会は研究者と実践者によって成り立っている。実践者が参加しやすい取り組みを増やす必要があるのではないか。

承認事項

審議の結果、年度末までに開催予定の電子メール理事会で再度審議することとした。

(6) 第 6 号議案：2022 年度予算（素案）について

・石田会長より、2022 年度予算（素案）について提案が行われた（第 6 号議案資料 1 及び 2）。学会誌や研究大会の費用を例年通りの規模で想定していること、第 12 期理事選挙にかかる委託費を計上していること、会議費や旅費について一部対面での学会活動を想定した予算としていること、学会事務局移転や新規事務局職員雇用を想定した費用を管理費として見積もっていること、トータルで黒字になること、等について説明があった。また、本予算案は素案であり、本日は大枠についての意見を集約したい旨付言があった。

質疑

- ・今回のものは決算が固まっていないので暫定予算となる。
- ・決算予測や前年度予算との比較表など添付されていないので今後は付けていただきたい。
- ・ここ 2 年程支出が 300 万程度しかない。このままでは会費を上げろという声が出る可能性がある。繰越金が多すぎるように思う。
- ・会費の納入率が悪いように思う。会費納入のお願いが十分ではないのではないかと。
⇒社会的自粛の中での会費請求のあり方について次年度検討する予定である。
- ・今後すべてオンラインでやるのであれば会費を下げてもいいが、対面に戻る部分が出てくると考えると、現時点ですぐに会費を下げるという判断はしにくい。
- ・日常の会議はオンラインでも問題ないので会議費等は以前より下がると思うが、年に何回かは対面でやるような機会をつくれればどうか。
- ・今期理事会は 6 月で終了するため、あまりチャレンジ的な予算編成はやりにくいという側面もある。
- ・予備費を少し多めにとってあげると、次の理事会は楽かもしれない。
- ・最近、あまり学会に行かなくなってしまった。やはり人に会えないことが大きい。懇親会のない学会など面白くない。来期の理事会マターかもしれないが、人が集

まる機会に予算を投資していくことが重要では。

- ・例えば、大会参加費を無料にするという案はどうか。

⇒次回から有料にできなくなったり、参加者が減るリスクはある。ただ、もし理事会で合意が得られればチャレンジしてもいいと思う。4月に参加申込開始予定なので、本日の理事会で合意があれば、実行委員会で審議して進めることはできる。

⇒現状の予算的には、大会には全員無料でもまったく問題ない。今回に限ってはということだが。

⇒会員も非会員も参加登録をしてもらい、とくに非会員には、学会の最新情報等を発信してはどうか。

承認事項

審議の結果、年度末までに開催予定の電子メール理事会で再度審議することとした。また、研究大会の参加費については、後日、大会運営委員会並びに大会実行委員会にて最終決定することとした。

(7) 第7号議案：新規入会会員の承認について

・石田会長より、新規入会会員の承認について提案がなされた(第7号議案資料)。2021年12月1日から2022年2月末までの入会希望者が7名あったことについて説明があった。

質疑

なし

承認事項

審議の結果、第7号議案は原案通り承認がなされた。

3. 報告事項の経過と結果

(1) 報告1：執行務報告

・石田会長より、執行部報告があった(資料なし)。前回の理事会で進める予定であったハラスメントに関する会員アンケートへの協力について、その後のメーリングリストでのやりとりや先方の対応等を踏まえ、執行部判断として協力しないことを決定したことについて、説明がなされた。

(2) 報告 2 : 学術研究委員会報告

・岡田学術研究委員会委員長より、委員会報告があった（報告 3 資料）。若手研究者への国際学会参加支援助成金について、2021 年度 2 回目の募集と助成を決定したことについて報告があった。また、3 月 22 日にウェビナーを開催することについて告知があった。

(3) 報告 3 : 大会運営委員会報告

・坂本大会企画委員会委員長より報告があった（報告 4 資料）。公開シンポジウムのテーマが「市民活動をめぐる研究・実践・メディアの対話」に決定したこと、計 8 企画を検討して準備を進めていること、ついて報告があった。

(4) 報告 4 : 選挙管理委員会報告

・仁平選挙管理委員会委員長より、委員会報告があった。委員長として仁平委員を互選したこと、理事候補者選挙の新たな実施案を作成したこと、について説明が行われた。

以 上

議長

石 田 祐 印

議事録署名人

川 中 大 輔 印

鈴 木 康 久 印
